

久志屋外運動場落成式典



完成した久志屋外運動場



安里区長の挨拶



テープカットの様子



渡具知市長の祝辞

令和8(2026)年3月22日、名護市久志区において久志屋外運動場落成式が行われ、関係者の方々が出席し完成を祝いました。

本施設は、名護市が当省の再編交付金を活用して整備したもので、200mトラックやジョギングコース、2面の野球場などを備え、区民の皆様の健康維持・増進に寄与し、また地域行事やレクリエーションを行う場として、久志区の活力あるまちづくりの推進に寄与するものです。

目次

CONTENTS

<ul style="list-style-type: none"> ■ 久志屋外運動場落成式典.....1 ■ 普天間飛行場代替施設建設事業について.....2 ■ キャンプ瑞慶覧(施設技術部地区・グスク部分)土地引渡し.....3 ■ 嘉手納弾薬庫地区における雑木伐採(読谷村道牧原線).....3 ■ 令和7(2025)年度沖縄防衛施設地方審議会の開催.....4 ■ 県道104号線越え実弾射撃訓練の分散・実施(令和8(2026)年度実施計画).....4 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 在沖海兵隊による事件・事故防止の各種取り組み.....5 ■ ロウワー・プラザ緑地ひろばにエイサーの音色響く.....6 ■ 幹部紹介.....7 ■ 令和8(2026)年度の沖縄防衛局業務研修.....8 ■ 伊江島一周マラソン大会.....8
--	---

普天間飛行場代替施設建設事業について

キャンプ・シュワブにおける普天間飛行場代替施設建設事業について、辺野古側においては平成29（2017）年11月から護岸工事に、平成30（2018）年12月には埋立工事にそれぞれ着手し、埋立工事がおおむね完了しています。

また、令和5（2023）年12月に変更承認申請の承認を得たことから、地盤改良工事や埋立工事をはじめとする大浦湾側の工事を進めています。令和8（2026）年2月からは、揚土能力の高い作業船であるリクレーマ船を導入し、埋立区域③-3の埋立工事等に活用しています。また、令和8（2026）年3月にはN-6護岸の工事に着手いたしました。

引き続き、普天間飛行場の一日も早い全面返還を実現し、そして、基地負担の軽減を図るため、作業の安全に十分留意した上で、関係法令に基づき、自然環境や周辺住民の方々の生活環境にも十分配慮しながら、移設に向けた工事を着実に進めてまいります。



リクレーマ船による揚土の様子



N-6護岸の工事の様子



キャンプ瑞慶覧（施設技術部地区・グスク部分）土地引渡し

令和2（2020）年3月31日に返還されました「キャンプ瑞慶覧の一部土地（施設技術部地区・グスク部分、約5.8㌥）」の物件撤去工事、不発弾探査、土壌汚染調査及び処理等の支障除去措置が完了し、令和8（2026）年3月31日に土地所有者の方々へ引渡しを行いました。これまで当該土地を国の防衛のために長年にわたり提供していただいた土地所有者の皆様方に感謝申し上げます。残り平坦地部分の約2.8㌥の土地についても、速やかに土地所有者に引渡すことができるよう取り組んでまいります。



白比川付近から見たグスク部分
（手前は平坦地部分）

嘉手納弾薬庫地区における雑木伐採（読谷村道牧原線）

米軍施設内外からの雑木が歩道まで伸びており、歩行者等の通行に支障を来しているとして、周辺住民から伐採の要望があった読谷村道牧原線に隣接する部分（嘉手納弾薬庫地区）について、沖縄防衛局から施設を管理する米空軍へ伐採を依頼するとともに、村道を管理する読谷村と調整したところ、令和8（2026）年2月、米空軍及び読谷村により雑木伐採が実施されました。沖縄防衛局では、こうした地域の皆様の声を踏まえ、引き続き生活環境に対する影響の軽減に努めてまいります。



伐採前



伐採後



令和7(2025)年度 沖縄防衛施設地方審議会の開催

令和8(2026)年3月13日、沖縄防衛局において、令和7(2025)年度沖縄防衛施設地方審議会が開催されました。

同審議会は、自衛隊施設や駐留軍の使用に供する施設及び区域に係る不動産等の権利の対価額等に関する事項及び防衛施設の使用により不動産等に生じた損失の補償額等に関する事項について、沖縄防衛局長の諮問に応じて調査審議し、必要と認める事項を建議する機関となっており、委員は令和8(2026)年2月に金融、経済、まちづくり、水産、医療など各分野の有識者9名を新たに任命し、計12名で構成されています。

同日の審議会では、委員の方々と当局職員の紹介、新たに会長へ就任された吉村正夫氏(弁護士)による挨拶などを行った後、普天間飛行場において、基地司令官によるブリーフィング及び基地内研修が行われ、委員の方々に防衛行政に対するご理解を深めていただきました。



審議会会長による挨拶



普天間航空基地司令官によるブリーフィング

県道104号線越え実弾射撃訓練の分散・実施 (令和8(2026)年度実施計画)

平成9(1997)年7月以降、本土5カ所の陸上自衛隊演習場で分散・実施されています。「県道104号線越え実弾射撃訓練」は、令和8(2026)年3月末までに計102回となりました。

令和8(2026)年度の各演習場における訓練の具体的な日程等については、今後、日米間において調整を行い決定しますが、現時点では下記のとおり計画しております。今後とも、本土5カ所の演習場への訓練の分散・実施を行い、沖縄県民の負担軽減に取り組んでまいります。

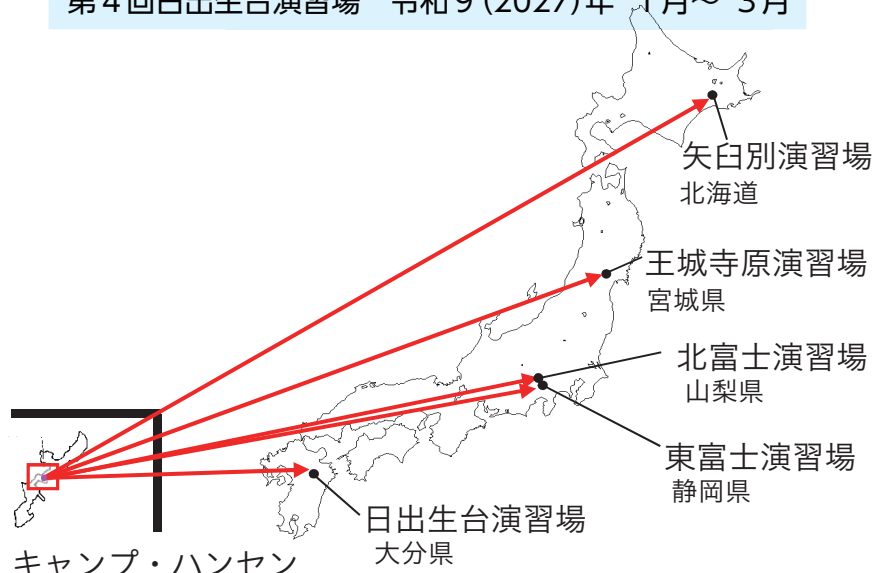


榴弾砲の移送準備作業



矢臼別演習場での訓練(令和7(2025)年度)

第1回北富士演習場	令和8(2026)年 4月～ 6月
第2回東富士演習場	令和8(2026)年 7月～ 9月
第3回矢臼別演習場	令和8(2026)年 10月～ 12月
第4回日出生台演習場	令和9(2027)年 1月～ 3月



在沖海兵隊による事件・事故防止の各種取り組み

【海兵隊基地・安全部による交通違反者講習】

令和8(2026)年2月13日、沖縄防衛局は、キャンプ瑞慶覧で実施されている在沖米軍人等を対象とした交通違反者講習を視察しました。

米海兵隊太平洋基地安全部スティーブン・フェアバンクス安全部長によると、この講習は、在沖海兵隊が中心となり、県内での事件・事故の発生を防止するとともに、ドライバーを再教育するための取組として毎月実施しており、近年では沖縄県警察本部と連携し、県内の事故発生状況及び実際の事故の映像を交える等、より県内の交通実態に沿った内容の講習を実施しているとのことでした。

今回は、在沖米軍内で行われている一部の教育を視察したものです。米軍では、各軍・各部隊において、日頃からこのような隊員教育を実施しているとの説明を受けております。

沖縄防衛局としては、米側に対し、隊員の教育や綱紀粛正について更なる努力を求めていくとともに、引き続き、日米間で協力して事件・事故防止に全力で取り組んでまいります。



沖縄県警察本部による講話

【飲酒運転根絶を目的とした講話】

令和8(2026)年1月23日、沖縄防衛局は、キャンプ・ハンセンで実施された飲酒運転根絶を目的とした講話を視察しました。

沖縄県においては、県民の飲酒運転根絶意識の高揚と飲酒運転の根絶を目的に、通年、沖縄県飲酒運転根絶県民運動（主唱：沖縄県交通安全推進協議会）に取り組んでいるところ、同運動の一環として、県内各地で「飲酒運転根絶アドバイザー」の講話や、県担当者による講習等を実施しており、米軍人に対しても各軍ごとに実施しているところです。

今回の講話では、自身の飲酒運転により重度の障害者となった飲酒運転根絶アドバイザーの体験談や、沖縄県警察本部による講習、飲酒検知要領の実演など、参加された海兵隊員は真剣に耳を傾けるなど、あらためて、飲酒運転の根絶に対する理解が深まる講話となりました。



アドバイザーによる講話



飲酒検知要領の実演

ロウワー・プラザ緑地ひろばにエイサーの音色響く

エイサー&フードフェスに約15,000人が来場

令和8(2026)年3月14日、15日の週末、沖縄市と北中城村にまたがる丘陵地に位置する「ロウワー・プラザ緑地ひろば」において、「ライカムエイサー&フードフェス in ロウワー・プラザ」(同実行委員会主催、沖縄市・北中城村・北中城村観光協会後援)が開催されました。本島中部の地元青年会など20を超えるエイサー団体をはじめ、プロレス団体や多数のキッチンカーが参加し、2日間で約15,000人(主催者発表)と多くの来場者がエイサー鑑賞や美味しい料理を満喫しました。

キャンプ瑞慶覧のロウワー・プラザ住宅地区は、平成25(2013)年4月に日米で合意された「沖縄における在日米軍施設・区域に関する統合計画」において返還が計画されており、返還までの間、日米の共同使用により緑地ひろばとして一般開放されています。日常の緑地ひろばは、散歩や園外保育、楽器練習、スケボーなど、地域の皆さまに様々な過ごし方で利用されています。今回のイベントは、より多くの方に「ロウワー・プラザ緑地ひろば」を訪れていただき、緑地ひろばの魅力を知っていただく機会となりました。「ロウワー・プラザ緑地ひろば」では、ソフトボール場や貸し切りドッグランなどの施設も利用可能(事前予約優先)ですので、ぜひご友人やご家族と一緒にお願いします。

今後も、地域の皆さまに親しまれる空間として、緑地ひろばの利用推進に取り組むとともに、引き続き同地区の早期返還に向けて努めてまいります。



芝生アートが来場者をお出迎え



各団体によるダイナミックなエイサー演舞



多彩なキッチンカーがエイサー鑑賞を盛り上げた



カチャーシーで熱気は最高潮に

ソフトボール場及びドッグラン利用に関するお問い合わせ・予約窓口

ロウワー・プラザ緑地ひろば管理事務所
☎090-6859-7896

許可が必要な利用(物品販売・イベント利用等)に関する申請方法

沖縄防衛局HP
「ロウワー・プラザ緑地ひろば利用申請手続きのご案内」をご確認ください



沖縄防衛局 HP



幹部紹介



企画部次長
やまざき ともき
山崎 智紀

4月1日付で企画部次長を拝命しました山崎です。

文化庁から出向してまいりました。直近では、建築文化の振興、文化庁京都移転の総括、文化財行政等を担当しておりました。沖縄勤務は初めてですが、かつて国立劇場おきなわの開場準備や首里城火災後の復元対応で集中的に訪れる機会があり、以前より関心を寄せてきた地で働けることを大変嬉しく思います。

沖縄防衛局は安全保障と沖縄地域社会の調和を図るという重要な役割を担っております。これまでの経験を活かしつつ貢献できるよう、皆様のご意見を真摯に受け止めて職務に尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



調達部次長
みうら けん
三浦 健

4月1日付けで調達部次長を拝命しました三浦です。

私は国土交通省の出身ですが、遡ること平成28(2016)年1月に防衛本省(市ヶ谷)に出向し、今回もご縁があり、約10年ぶりに2度目の防衛省出向を命ぜられ、沖縄勤務となりました。初めての単身赴任、初めての沖縄勤務ですが、沖縄の豊かな自然や歴史・文化に触れながら業務が出来ることを楽しみにしています。重要な事業に携われることを誇りに、皆様のお役に立てるよう取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



労務管理官
ごまだ ひでちか
胡麻田 英近

4月1日付けで労務管理官を拝命しました胡麻田です。沖縄での生活は6年目を迎え、労務管理業務は3年ぶり2回目となります。沖縄に所在する米軍施設には、約9,000名の基地従業員の方々が勤務し、現地米軍の様々な活動を支えております。労務管理官室は、これら基地従業員の労務管理を担っており、良好な職場環境を維持するため、基地従業員及び労働組合からの話を丁寧に伺いながら、現地米軍及び関係機関と連携を図り、職場から生ずる問題の解決に向け取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



那覇出張所長
つつみ ともひろ
堤 知宏

4月1日付けで那覇出張所長を拝命しました堤です。那覇出張所は、沖縄本島那覇市以南の4市及び島尻郡の一部10町村を管轄区域としております。出先機関としての業務を担っていく上で、常日頃から本局と緊密な連絡体制を維持し、防衛施設の運用等から生じる諸問題の早期解決に向け、迅速かつ的確な対応に努めるとともに、地域の皆様の視点に立ち、より地域に密着した対応を心がけ取り組んでまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

令和8(2026)年度の沖縄防衛局業務研修

沖縄防衛局では、令和8(2026)年4月の新規採用者及び令和7(2025)年度の中途採用者を含めた計16名を対象に、令和8(2026)年4月6日から3日間の日程で初任者研修を行いました。

局内での座学研修では、防衛省職員として必要となる心構えや理解すべき基本的な事項に加え、各部等の業務紹介などの講義を実施し、研修員は基礎知識の習得に努めました。

また、令和8(2026)年4月17日には現地研修を実施しました。この現地研修では、航空自衛隊那覇基地を視察し装備品等を見学したほか、防衛省の補助事業を活用して整備された沖縄サントリーアリーナや嘉手納野球場を訪問し、施設の内部見学や施設概要の説明を受けるなど、研修員が防衛省補助金の活用事例を現場で学ぶ機会となりました。

当局としては、本研修の受講により、防衛省職員としての使命感を高めた各研修員が、沖縄防衛局の一員として活躍していくことに大きく期待しています。



局職員による講義



嘉手納野球場で説明を受ける様子

伊江島一周マラソン大会

令和8(2026)年4月11日、伊江村において、「第33回伊江島一周マラソン大会」が開催されました。

同大会は、伊江村ミースィ公園を発着点に、ハーフの部、3km、5km、10kmの4部門あわせ、県内外から過去最高となる、2,825人のランナーが参加しました。

また、ハーフの部においては、伊江島補助飛行場内をコースの一部としていますが、これは、伊江島一周マラソン大会実行委員会からの要請に対して、米側の協力により、同飛行場内の一部をコースとして開放しているものです。

当局の局長をはじめ職員も参加し、地元住民からの温かい声援を背に受けながら、全員が完走しました。



タッチューを背に力走する職員



村民の声援を背に力走する職員